

苦前町における  
平成23年度全国学力・学習状況調査の結果

平成24年 2月

苦前町教育委員会

平成23年12月21日、北海道教育委員会から、北海道の公立学校における調査結果の概要として、「平成23年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」が公表された。苫前町教育委員会では、この調査結果を受けて苫前町の学力・学習状況を把握し、各学校における指導の工夫改善に生かすために、調査結果の概要をまとめたものである。

## 平成23年度全国学力・学習状況調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の対象学年

#### ア 小学校調査

小学校6学年、特別支援学校小学部第6学年

#### イ 中学校調査

中学校3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

### 3 調査の方式

国が配布する問題冊子等を活用し、市町村教育委員会の協力を得て行う。

### 4 調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

区分	対象学校数（校）	実施学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	965	965	29,378
中学校	557	557	29,855
合計	1,522	1,522	59,233

\* 札幌市を除く178市町村

### 5 調査期日

平成23年9月27日（火）

### 6 調査問題の出題範囲や内容（教科に関する調査）

#### 【小学校国語】

- ・「知識」に関する問題では、これまでと同様に、漢字を正しく読んだり書いたりする問題のほか、新たに新聞記事を効果的に読み、必要な情報を得るなどの問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、これまでと同様に自分の考えをまとめたり、効果的に書いたりする問題が出題された。

#### 【小学校算数】

- ・「知識」に関する問題では、これまでと同様に、整数、小数の計算をする問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、筋道を立てて考えることに加えて、事象を数学的に解釈する問題が出題された。

## 【中学校国語】

- ・「知識」に関する問題では、漢字を正しく読んだり書いたりする問題のほか、同音異義語を使い分けたり、漢字の楷書と行書の違いを書くなどの問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、これまでと同様に、理由を書く問題や提示された形式に合わせて書く問題が出題された。

## 【中学校数学】

- ・「知識」に関する問題では、これまでと同様に、文字を用いた式の四則計算のほか、移行措置の内容である代表値や資料の散らばりなど、「資料の活用」領域にかかわる問題も出題された。また、「活用」に関する問題では、示された事柄を根拠をもって説明する問題が多く出題された。

## 7 児童生徒調査の質問内容（質問紙調査）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 8 調査結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

## 苫前町の全国学力調査結果の概要

### 1 児童生徒の学力状況の概要

#### 【小学校】

区分	国語A（知識） 正答率（％）	国語B（活用） 正答率（％）	算数A（知識） 正答率（％）	算数B（活用） 正答率（％）
北海道	73.1	36.2	78.0	42.2
苫前町	83.1	43.3	79.4	45.7

#### (1) 国語A 主として「知識」に関する問題

- \* 全道平均を 10 ポイント上回っている。
- \* 設問 6 「新聞記事の中から図書祭りに関する記事を読んで、全体の構成を捉える」(97%)、設問 3 「相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話す」(93.9%)、設問 9 「相手や目的に応じ、敬体と常体との違いに注意して書くことができる」(93.9%)等の問題については、特に平均正答率が高い。
- \* 課題が見られるものは、設問 5 「主語を置き換えて記事の下書きを書き直す」(42.4%)で、「誰が、何を、どうした」など、主体と対象との関係を明確にできるように指導することが大切である。
- \* 今後は、書く力（特に、主語と述語、修飾と被修飾との関係を踏まえて書く）の向上にポイントを置いて指導を続けていく必要がある。
- \* 8割以上の正答率を示した児童が70%、6割未満が6%となっている。正答率6割未満の子が少なく、良好な結果を示している。

#### (2) 国語B 主として「活用」に関する問題

- \* 全道平均を 7.1 ポイント上回っている。
- \* 設問 3 イ 「二つの資料を比べて読み、互いの考えを交流することで、優れた叙述を多面的に捉える」(18.2%)や設問 3 ウ エ 「二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を

選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする」(27.3%)など、目的や意図に応じ、自分の考えを効果的に書くことや伝記を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深めることについて平均正答率が低い傾向にある。

- \* 今後は、授業の中で、書いてまとめる活動を適切に位置付けたり、「字で」、「文章中の言葉を使って」など、条件を示して書く活動を位置づけたりして、書く能力を高める必要がある。
- \* 5割未満が58%となっており、過半数を超えている。特に、正答率3割以下の児童が24%おり、活用する能力の育成が急務である。

### (3) 算数A 主として「知識」に関する問題

- \* 全道平均を1.4ポイント上回っている。
- \* 設問1(4)「減法と乗法の混合した整数の計算」(100%)、設問1(5)「を用いた整数の計算」(97%)の問題について、平均正答率が高い結果となっており、改善の傾向が見られる。
- \* 設問9「百分率の意味について理解している」(33.3%)が、他の設問と比べ大きく落ち込んでおり、「基準とする量」を決めて「比較する量」を求めることや、数値の値を置き換えて考えることに課題が見られる。
- \* 今後は、筋道を立てて考える機会を設けるとともに、考えたことを言葉や式、グラフなどを活用して表す活動を設定し、下学年における数の表し方や仕組みに関わる学習、「基準とする量」と「比較する量」の関係を確実に身に付けさせる必要がある。
- \* 8割以上の正答率を示した児童が61%であったが、5割に満たない児童が12%おり、きめ細かな対策が求められる。

### (4) 算数B 主として「活用」に関する問題

- \* 全道平均を3.5ポイント上回っている。
- \* 設問1(1)「表からきまりを見つける」(69.7%)、設問4(1)「グラフから必要な情報を読み取る」(69.7%)などの問題は、他設問に比べ平均正答率が高い。
- \* 設問2(2)「2量の関係の意味を問う」(6.1%)、設問4(3)「資料からの読み取りの判断」(12.1%)、設問3(3)「図形の形や大きさの判断」(18.2%)では、理由や意味を記述することなどに課題が見られる。
- \* 今後は、論理的に考えたり、筋道を立てて説明したりすることを記述する力にまで高める必要がある。
- \* 5割未満が58%となっており、過半数を超えている。特に、正答率3割以下の児童が12%おり、事象を数学的に解釈する力の育成が課題である。

## 【 中学校 】

区分	国語A(知識) 正答率(%)	国語B(活用) 正答率(%)	数学A(知識) 正答率(%)	数学B(活用) 正答率(%)
北海道	78.0	62.4	54.7	47.4
苫前町	77.3	62.4	42.1	37.6

### (1) 国語A 主として「知識」に関する問題

- \* 全道平均より、0.7ポイント低い正答率となっている。

- \* 設問 3 一「『グラフ参照』という言葉を入れる箇所として適切なものを選択する」(100%)、設問 6 二「索引のページから、調べたい事柄がより詳しく解説されているページを探す」(100%)、設問 9 三オ「適切な語句を選択する(知恵をしぼる)」(100%)等の問題については非常に高い結果となっており、改善の傾向が見られる。
- \* 設問 7 二「話し合いの方向を捉えた司会としての質問を書く」(52.2%)、9 一 2「漢字を書く(祭りの日程をケントウする)」(21.7%)など、話し合いの方向性を捉えて的確に発言することや、文脈に即して正しい漢字を選択して書くことについて平均正答率が低い傾向にある。
- \* 特に、設問 9 三イ「適切な語句を選択する」(13.0%)については、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことなど、言語事項の定着に課題が見られる。
- \* 8割以上の正答率を示した生徒が48%、6割未満が17%となっている。

## (2) 国語 B 主として「活用」に関する問題

- \* 全道平均と同じ正答率となっている。
- \* 文章の内容を正確に捉える問題については、平均正答率が高い結果となっており、改善の傾向が見られる。
  - ・「『ピクトグラム』について説明したものとして適切なものを選択する」(95.2%)
  - ・「比喩を用いた表現の内容として適切なものを選択する」(90.5%)
- \* 設問 2 三「本文を読んで分かったことを一つ取り上げ、Q&Aの形式で紹介する」(32.1%)、3 三「読みたい本を一冊選択し、その本を選択した理由を書く」(47.8%)など、文章の内容を正確に捉え、提示された形式に合わせて適切に書くことや、文章に書かれている事柄を基に、今までの体験や読書の経験と結び付けて自分の考えを書くことについて平均正答率が低い傾向にある。
- \* 特に、設問 1 三「二つの『ピクトグラム』を比べ、どちらを採用するのかを理由と共に三文で書く」(39.1%)問題については平均正答率が低く、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び整理し、示された条件に応じて自分の考えを書くことに課題が見られる。

## (3) 数学 A 主として「知識」に関する問題

- \* 全道平均より、12.6ポイント低い正答率となっている。
- \* 設問 6 (1)「平行線の錯角の大きさが等しいことを利用して、角の大きさを求める」(82.6%)の問題について、平均正答率が高い結果となっており、改善の傾向が見られる。
- \* 設問 1 2「反比例の関係を読み取る」(17.4%)や設問 4 (2)「回転移動の意味を理解する」(13.0%)では、関数関係を見出したり、図形の角度を求めたりすることについて課題が見られる。
- \* 特に、設問 1 3 (2)「得点の中央値の意味を理解している」(8.7%)では、数学的な表現・処理などに課題が見られる。
- \* 8割以上の正答率を示した生徒が4%と少なく、3割に満たない生徒が39%おり、学習指導領域全般にわたるきめ細かな指導が求められる。

## (4) 数学 B 主として「活用」に関する問題

- \* 全道平均より、9.8ポイント低い正答率となっている。
- \* 設問 1 (1)「グラフの読み取り」(63.6%)、3 (1)「事象を数量や図形に着目し、その特徴を的確に捉える」(63.6%)の問題について平均正答率が高い。

\* 設問 3 (2) 「2つの三角形の証明」(21.7%)、4 (2) 「2つの線分の長さが等しい事の証明」(21.7%)では、数学的な表現を用いて説明することについて課題が見られる。

\* 特に、設問 5 (2) 「資料から読み取った情報について理由を書く」(8.6%)では、与えられた情報を基にして考察し、理由等を説明することに、継続的な課題が見られる。

## 2 児童生徒の学習状況の概要

### 〔学習状況調査結果の傾向〕

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境などについての質問で構成されており、学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっている。

本調査において、「している」「どちらとえばしている」と肯定的に解答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向として分類した。

### 苫前町の児童生徒が高い傾向（80%以上）を示した質問事項

#### 小学校・中学校共通

- \* 朝食を毎日食べている。
- \* 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている。
- \* 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- \* ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- \* 家の人と普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べている。
- \* 学校で友達に会うのは楽しいと思う。
- \* 友達との約束を守っている。
- \* 近所の人に会ったときは、あいさつをしている。
- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。

#### 小学校のみ

- \* 家の人に、学校での出来事について話をする。
- \* 家で学校の宿題をしている。
- \* 学校のきまりを守っている。
- \* 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。
- \* いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- \* 「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。
- \* 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。
- \* 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
- \* 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業の内容はよく分かる。
- \* 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
- \* 算数の勉強は大切だと思う。
- \* 算数の授業で新しい問題に出合ったときには、解いてみたい。
- \* 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- \* 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
- \* 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

- \* 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

中学校のみ

なし

### 苫前町の児童生徒が低い傾向（60%未満）を示した質問事項

小学校・中学校共通

- \* 自分で計画を立てて、家で勉強している。
- \* 家で学校の授業の予習をしている。
- \* 家で学校の授業の復習をしている。

小学校のみ

なし

中学校のみ

- \* 自分にはよいところがあると思う。
- \* 家の人と学校での出来事について話をしている。
- \* 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- \* 学校の宿題をしている。
- \* 苦手な教科の勉強をしている。
- \* テストで間違えた問題を、後で勉強している。
- \* 新聞やテレビのニュースなどに関心がある。
- \* 今住んでいる地域の行事に参加している。
- \* 学校や塾の先生・家の人以外の地域の大人と一緒に遊んだり、勉強を教えてもらったりすることがある。
- \* 人が困っているときは、進んで助けている。
- \* 学級の友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。
- \* 「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。
- \* 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。
- \* 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う。
- \* 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
- \* 普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよくやっていると思う。
- \* 授業では、ノートを丁寧に書いている。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業の内容はよく分かる。
- \* 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- \* 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- \* 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。
- \* 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- \* 数学の勉強は好きである。

- \* 数学の勉強は大切だ。
- \* 数学の授業の内容はよく分かる。
- \* 数学ができるようになりたいと思う。
- \* 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- \* 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- \* 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- \* 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 〕

質 問 内 容		児童	生徒
月～金曜日の起きる時刻（最多）		6時半～7時	6時～8時の間で分散
月～金曜日の寝る時刻（最多）		21時～22時	23時～24時
睡眠時間		8～9時間	6～7時間
月～金曜日、1日あたり 「テレビやビデオ・DVD」を見たり、聞いたりする時間	2時間以上	70%	61%
	4時間以上	39%	17%
月～金曜日、1日あたり 「テレビゲーム」をする時間	1時間以上	45%	75%
	4時間以上	15%	9%
月～金曜日、1日あたり 「インターネット」をする時間	1時間以上	24%	39%
	4時間以上	3%	17%
携帯電話を持っている		18%	56%
月～金曜日、1日あたり 学校以外での学習時間（1時間以上）		36%	56%
休日1日あたりの学習時間（1時間以上）		45%	52%
学習塾（家庭教師含む）で勉強している		12%	39%
月～金曜日、1日あたり 読書をする時間	30分以上	36%	48%
	2時間以上	9%	4%
昼休みや放課後、休日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へ月1回以上行く		61%	26%

〔 質問紙調査の結果 〕

< 学習に対する関心・意欲・態度 >

「国語の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道よりも高い傾向を示している。

「算数・数学の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生は低い結果であった。

< 学習時間等 >

学校の授業時間以外の勉強時間（月～金曜日）は、全道よりも少ない。

学校の宿題をしている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じであったが、中学生では低い結果であった。

読書が好きな児童生徒の割合は、全道と比べて高い傾向を示している。

1日あたり10分以上読書をする児童生徒の割合は、全道と比べて高い傾向を示している。

< 基本的な生活習慣 >

朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じであったが、中学生では高い傾向を示している。

< 基本的な生活習慣 >

家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生は低い結果であった。